

2024 年度 (令和 6 年度) 学校評価自己評価表

校番	福山市立 福山中・高等 学校
最終更新日	2024年(令和6年)4月17日

I 福山市 ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 自校	前年度学校関係者評価の主な内容	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	探究心・創造力・思考力 コミュニケーション力 協働 チャレンジ精神
	<p>○生徒が明るく前向きな笑顔で過ごしている様子が見られた。 ○めざす生徒像につながる取組が効果的に実践されていると感じた。 ○HPが新しくなり、整理され閲覧しやすくなった。 ○地域との連携が、地域の方々の信頼につながっていることは大変素晴らしい。 ○中高一貫校の特徴を生かした取組が効果的に行われていると思う。</p>	めざす生徒像	<p>○積極的に地域や社会に働きかけ、課題を発見し、よりよい価値の創造に向け努力する生徒 ○多様性を認め合う寛容さを持ち、互いの思い・考えを大切にしながら協働する生徒 ○心身ともに健康で、困難に負けず粘り強く挑戦し続ける生徒</p>
	教育理念		
	<p>ESD(持続可能な開発のための教育)を通じて、生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し、溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに、持続可能な社会の創造に向けグローバルに活躍する人間を育成する</p>		
	学校教育目標		
	<p>旺盛な探究心、豊かな創造力、柔軟な思考力を育み、課題の解決に向け粘り強く挑戦する生徒の育成</p>		

現状	中学校	高等学校	テーマ	グローバル社会・地域社会で活躍する意欲と態度をもった生徒をどう育成するか
	<p><生徒> ○「通学マナーを守っている」に対する生徒の肯定的評価は97.9%と高いが、列車内及び登下校のマナーにおいて地域から苦情が寄せられるという事実もあり、意識のズレがある。 ○教科指導、特別活動(学活・生徒会活動・学校行事)、進路指導等、学校の取組に対する生徒、保護者の満足度、帰属意識は高い。「福山中で学んで良かった」(生徒)、「福山中へ子どもを行かせて良かった」(保護者)に対する肯定的評価はそれぞれ93.8%、92.9%である。 ○「生徒会活動(委員会含む)に積極的に参加している」に対する生徒の肯定的評価は69.4%である。 ○「自ら挨拶している」に対する生徒の肯定的評価は97.8%、他者評価の視点から更に質の高い挨拶が求められる。 ○長期欠席者数は、11人である。</p>	<p><生徒> ○「国公立大学合格証べ数を99人以上とする。」に対し90人、「難関国公立大学合格証べ数を15人以上とする。」に対し難関大・医歯薬獣医合計6名の合格。 ○国公立大学を第1志望とする生徒の割合は入学時は87.7%である ○「モラルを理解している」との回答95.6%、「場面に応じた適切な行動がとれる」との回答92.5%であった。 ○「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」との回答89.5%、部活動加入率は87.6%であり、「部活動から充実感や達成感を得ている」との回答84.9%であった。</p>	研究 内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実践的授業研究 ・生徒の探究能力・コミュニケーション能力の育成を目的とした実践的授業研究 ・ESDの2観点に基づいた資質・能力を育成するための授業づくり
<p><授業> ○中学3年生を対象とした全国学力学習状況調査において、昨年度の結果は国語88%、数学81%いずれも市平均よりも大きく上回る結果となった。また、学力の伸びを把握する調査の結果より、学力を伸ばした生徒の割合は国語では2年66.1%、3年51.3%、数学では2年64.3%、3年で58.9%、英語では3年88.5%であった。現在進めているICTを活用した主体的な学び、探究的な学びを通じて、生徒は着実に力を付けてきている。 ○昨年度実施した学校評価アンケートでは、「主体的な学びをすすめるような授業の研究・工夫をしている」と感じる生徒が91.3%、「総合的な学習に主体的に取り組んでいる」生徒が91.4%といずれも高評価であり、生徒の主体性の高まりが見られる。また、「主体的な学びを取り入れた授業改善を行っている」教員は91.7%であり、教員の意識も高い水準である。 ○今後も、校内研修の充実を図るとともに、数学、英語での習熟度別のきめ細かい少人数授業、総合的な学習で取り組んでいる探究学習「My探究」、全教科でのICTを活用した多様な学習、課題の提示の仕方や家庭学習を工夫して行う指導、ESDの視点を加味した授業研究に取組み、生徒に「21世紀型スキル&倫理観」を育成する。</p>	<p><授業> ○生徒アンケート「授業を理解している」の肯定的回答は78.1%。教職員アンケート「授業計画表を活用した授業を実践した」の肯定的回答は94.7%。 ○「資質・能力の向上に努力している」78.1%、ルーブリックの「創」/「思」/「コ」の伸長率は4年3.0→2.9/3.0→2.7/2.0→3.3 5年2.8→3.1/2.7→2.9/3.3→3.4 6年3.0→3.5/3.2→3.6/3.2→3.6。 ○新ビジョンに基づく新ルーブリックを策定したため、新たな項目での伸長率を見ている。 ○継続して、ホールスクールで資質・能力を高める授業の工夫に取り組み。</p>	めざす授業の姿		<p>(1) 「主体的な学び」の過程が実現できている授業 ① 学ぶことに「興味や関心」を持っている。 ② 自己の「キャリア形成の方向性」と関連付けている。 ③ 「見通し」を持って「粘り強く」取り組んでいる。 ④ 自己の学習活動を「振り返って」次に「つなげて」いる。</p> <p>(2) 「対話的な学び」の過程が実現できている授業 ① 「生徒同士の協働」を通じ、自己の考えを広げ、深めている。 ② 「教職員や地域の人との対話」を通じ、自己の考えを広げ深めている。 ③ 「先哲の考え方を手掛かりに考えること」等を通じ、自己の考えを広げ深めている。</p> <p>(3) 「深い学び」の過程が実現できている授業 ① 知識を相互に「関連付け」てより深く理解している。 ② 情報を精査して「考えを形成」している。 ③ 問題を見いだして「解決策」を考えている。 ④ 思いや考えを基に「創造」している。</p>

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
	中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継続	基礎的・基本的な知識、技能を備えた生徒	・生徒に課題設定をさせたり、自主学習を充実させたりする。	・「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」と回答する生徒を90%以上とする。	・現時点で、肯定的に回答した生徒は、85.2%と昨年度より5.8%高かった。	3	3	様々な学習方法を紹介したり、各学級で学習方法を共有させたりすることで、学習スキルを高めていく。				
				知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	・知識、技能を活用して、思考・判断・表現させる内容の授業を行う。	・「授業で考えることがおもしろいと感じている」と回答する生徒の割合を85%以上とする。 ・定期考査において活用問題の得点率を60%以上とする。	・授業が面白いと回答する生徒は81.9%で昨年度より8.4%高かった。 ・活用問題の得点率は68.2%と昨年度より20.7%高かった。	3	4	基礎的・基本的な学習内容を徹底して身につけさせることによって、活用問題などの応用的内容に挑戦できる力を身につけさせていきたい。				
				高い志を持って、主体的な学びに向かうことができる生徒	・総合的な学習の時間や学活の時間に、自己をみつめ、将来になりたい自分(職業など)を考える時間をとる。	・自分は「進路について考え、目標を見つけようとしている」と答える生徒を85%以上とする。	・現時点で肯定的に回答した生徒は80.4%であった。	3	3	引き続き総合的な学習の時間や学活の時間を使って将来について考える時間をとりたい。				
中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	・主体的に挨拶ができる生徒	・生徒会活動を中心に挨拶を活性化する。	・「自らあいさつをしている」と回答する生徒を90%以上とする。	・現時点で、肯定的に回答した生徒は、86.1%であった。	3	3	生徒会活動を通して、啓発活動や挨拶をする取り組みを行っていく。また、教員によるあいさつ先行も実践し、あいさつの活性化につなげる。					
			・社会人として必要なマナーを身に付けた生徒	・生徒指導規程を周知し、登下校マナーや学校や社会のルールについての指導を充実させることで生徒の自律意識を高める。	・「登下校のマナーを身につけている」と回答する生徒を90%以上とする。	・肯定的に回答した生徒は、98.2%であった。	3	3	肯定的に回答した生徒の割合は高いが、本年度は地域の方から登下校のマナーについて多くの指摘を受けているので、集会やSHRなどで声をかけていく。					
			・充実した学校生活を送るための自己肯定感の高い生徒	・不登校(長期)生徒数ゼロに向けて取組を充実させる。	・長欠ゼロ実現のための担当者、担任と週に1回以上は連携を取り、年間30日以上欠席者数を5人以内とし、新規長期欠席者を0人をめざす。(昨年度11人)	・担当者及各担任での情報共有等を行い、長欠を減らす取り組みを行っている。9月末現在で長欠者は5人、不登校は3人である。	3	3	新規の不登校生徒も出ているので、カウンセラーや関係機関等とも連携を行い、生徒が前向きに生活ができる取組を担当とともに進める。					

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立	福山中	学校
------	-----	----

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒(教科「道徳」を通じて)	・生徒が自分の問題として「考え、議論する」道徳の授業を行う。教材の工夫等を通して、生徒の興味を引きつける道徳授業の実践を図る。	・「道徳の授業を通して、『よりよく生きること』について考えることができた」と回答する生徒の割合を90%以上とする。	・生徒アンケートでは、現時点で肯定的に回答した生徒は、93.0%であった。	4	4	引き続き、教材の工夫をし、生徒の興味を引きつける道徳授業を行っていく。				
主体的な関わり合いを持ちながら共に伸びる生徒				・学級活動、学校行事や生徒会行事を通して人間関係の構築を促す。	・「あなたは、学び合いやグループ活動において、自分の考えが認められている」と回答する生徒の割合を95%以上とする。	・生徒アンケートでは、現時点で肯定的に回答した生徒は、96.3%であった。	4	4	引き続き、学校行事や生徒会行事を通して集団づくりに取り組み、生徒同士のつながりを深めさせる。					
	国際課題、地域課題について探究し、持続可能な社会の創り手となる生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	地域を知り、地域課題解決に取組む意欲と態度を備えた生徒	・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で、社会とつながる取組を行う(全学年)。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリックの①地域課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	・ルーブリックは、春の実施では①地域課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.54ポイントだった(昨年度2.46ポイント)。 ・2学年では、9月末に職場体験学習を行い、地域の48事業所で体験を行った。	3	2	引き続き、My探究や各教科等で校外とつながりを持てるように取り組む。				
国際交流や国際課題に取組む意欲と態度を備えた生徒				・総合的な学習の時間や教科の授業等で、浦項大東中学校、ダウンラウンズカレッジ等との国際交流を図る(全学年)。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリック②国際課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	・ルーブリックは、春の実施では②国際課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.39ポイントだった(昨年度2.3ポイント)。 ・全学年で、浦項大東中学校訪問団との交流を行った。また、フィリピンのセブ島へ語学留学した生徒も12名いた。	3	2	海外の学校との交流をさらに実施し、世界への興味関心を広げさせる。					
自尊心を高め、学びを活かしライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒				・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で、社会とつながり自分自身について考える取組を行う(全学年)。	・「福山中・高等学校ESD3プロジェクト」ルーブリックの③在り方生き方探究のレベルが上昇した生徒の割合を50%以上とする。	・ルーブリックは、春の実施では③在り方生き方探究の平均ポイントは5ポイント中、2.64ポイントだった(昨年度2.52ポイント)。 ・My探究で企業とつながって動いているグループがある。	3	2	講師を招聘したり、進路講話を開催したりして、自らの将来に向けたより良い在り方生き方について考えさせる。					

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。 【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外に広く発信する広報官としての意識を持つ教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と連携し、オープンスクールや本校の学校行事や教育活動について、小学生の関心意欲を高めるとともに、中学校受検者数の増加につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールの申し込み数は793名、参加者数は763名と目標値を上回った。（昨年度参加者736名） ・事後アンケートの結果は、満足と回答した人は96.3%だった。 	4	4	参加者からの声を踏まえ、情報発信のしかたや内容を工夫し、来年度も目標達成を目指す。					
						<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や本校の独自の取り組みをHP等を使い、月5回以上情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月生徒会広報誌を地域に配付することができた。 ・HP更新回数、月平均6.5回と目標を上回っている。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会広報誌の発行やHPの更新数は今後も継続していく。 ・行事だけでなく、普段の生徒の様子や委員会などの取組も発信し、中学校のPRをしていく。 				

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)			
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価
中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】	継続	基礎的、基本的な知識、技能を備えた生徒	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を意識した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(生徒)で「授業を理解している」を85%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(2学期:4,5,6年別)72.9%,77%,88.1% 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 特に4年は4人に1人が理解できていない。教員は95.2%が理解できていると認識差がある。 授業改善について教育研究と連携を図る。 					
			<ul style="list-style-type: none"> 授業計画表を効果的に活用した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート(教員)「授業計画表を活用した授業を実施した」を95%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業計画表の作成が遅れたため、配付が遅くなった。 学校評価アンケート(2学期:教員)95.3% 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の進行や成績評価について、一定の指針となっている。配付が早期にできるよう作成時期を年度末に実施する。 					
	継続	知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	<ul style="list-style-type: none"> 「3つの学び」を意識した授業の工夫を行うことにより、生徒の6つの資質・能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「3つの学び」を意識した授業を行い、ルーブリックの資質・能力の内、「創造力」「思考力」「コミュニケーション力」の伸長率を20%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回の結果は以下の通り。 4年:創2.5思2.6コ2.9 5年:創3.2思3.2コ3.4 6年:創3.0思2.9コ3.4 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ルーブリックの平均値は第2回との比較を待つ(11月)。2学期は修学旅行や探究の時間に発表の機会があり、さらなる伸長が期待できる。 					
	継続	高い志を持って主体的、多面的に学びに向かうことができる生徒	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学受験を前提とした進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査で国公立大学を第1志望とする生徒の割合を80%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 高1生85.0%、高2生83.0%、高3生69.1%、全体では79.0%となった。 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 低学年には国公立大学進学を意識づけるための指導を個人面談・学年集会を通して行う。3年には面談で国公立大受験の可能性を示す。 					
			<ul style="list-style-type: none"> LHRや学年集会等を通して、全員が国公立大学を受験し合格を目指す雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査で難関国立大学を第1志望とする生徒の割合を10%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 医歯薬希望を含め、高2生32名(7月現在)で16.9%、高3生28名(9月現在)で14.4%が志望している。 	4	5	<ul style="list-style-type: none"> 難関大受験支援プログラムで教科学力の向上を目指し、難関大受験を意識した学習計画を実行させる。 					
			<ul style="list-style-type: none"> 共通テストを受験する6年生の割合を95%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通テストを受験する6年生の割合を95%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通テスト出願者は、192名/194名で、99.0%となった。 	4	5	<ul style="list-style-type: none"> 達成した。 					
			<ul style="list-style-type: none"> 細やかな教科指導と個人面談を通して、6教科8科目を共通テストまで頑張らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学合格延べ数を99人以上とする。(過年度生含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 6年生国公立大希望者130名 国公立大学総合型及び学校推薦入試出願予定者34名(10月現在) 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 個別の面談で生徒の希望学部・学科を把握し、総合型・学校推薦・一般入試において適切な受験先の指導を行う。 					
			<ul style="list-style-type: none"> I SSP、ITKPによる難関大学を目指し切磋琢磨する集団を早期に形成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 難関国立大学合格延べ数を15人以上とする。(過年度生含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 医歯薬希望を含め6年生7月模試時点での難関大C判定以上6名 D判定16名 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> 当該生徒の教科学力と希望学部・学科を把握し、学年・進路・教科で連携して指導する。データ分析をもとに全国的な受験動向を把握する。 					

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】	継続	継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	・生徒の自己分析を促したり、ネットリテラシーを育んだりするような講演会を依頼し、全校生徒に取組を行う。	・自己肯定感や、ネットリテラシーに関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合を80%以上とする。	・ネットテラシーに関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合は94.1%であった。	4	4	・引き続き学校全体に呼び掛けて、意識を向け注意喚起する。				
				社会人基礎力(礼儀・マナー、自律)を身に付けた生徒	・学期ごとに「生徒指導重点目標」を設定し、それぞれにおいて指導項目を重点化することで教職員による組織的な指導を行う。風紀委員会活動等での啓発活動を行う。	・礼儀、マナー、挨拶に関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合80%を以上とする。	・風紀委員会等でマナーなどの啓発活動を実施した。生徒アンケートの結果、肯定的割合は89%であった。	4	4	風紀委員会活動を4回実施した。学期ごとに重点目標に向けて引き続き実施していく。				
		継続	継続	部活動や学校行事、生徒会行事に主体的に取組む生徒	・一樹祭等を通じて生徒の主体的、自治的活動を促進する。	・「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	生徒アンケートの結果、肯定的な回答は86%であった。	4	4	引き続き、学校行事において生徒が主体となる企画・運営を行う。				
				心身の発達に応じて体育祭、スポーツ大会等を計画的に実施する。	・各部活動が自らの活動を発表したり、学校行事等で活躍できたりする場を設ける。	・部活動加入率を80%以上とする。 ・「部活動から充実感や達成感を得ている」と回答する生徒を部活動加入者の80%以上とする。	・部活動加入率は92%であった。 ・部活動についての生徒アンケートの結果、肯定的評価は72.6%であった。	3	3	引き続き、各部活動が自らの活動を発表したり、学校行事等で活躍できたりする場を設ける。				
継続	継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	・すべての委員会活動を活性化させ、各種委員会における自主的、自治的活動を推進する。	・「あなたは体育祭、スポーツ大会などに積極的に参加している」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上とする。	生徒アンケートの結果は、85%であった	4	4	執行部、委員会を中心に生徒が主体となる企画・運営を行う。						
	国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】	継続	継続	地元企業と連携した探究学習を通して、地域を知り、地域課題解決に取り組む意欲と態度を備えた生徒	・グローバル人材育成事業により企業研究を行い、企業に対し提案を含めた高校生がつくる高校生のための企業ガイドブックを作成する。	・「地域の企業や課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して対象の4年生の学校評価アンケートで肯定率を65%以上とする。	「地域企業研究」は、全学年を通して67%、企業研究に取り組んでいる4年生で肯定率は70.8%であった。	4	4	生徒が主体的に課題解決に取り組めるよう引き続きコーディネーターや企業と連携を図る。				
				ユネスコスクールとして、国際交流や国際課題に挑戦する意欲と態度を備えた生徒	・海外研修を通して国際課題解決に向けたレポートの作成・発表を行い、「夢プロ」では国際課題に関するプログラムに積極的に参加する。	・「国際課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して5年生を対象として学校評価アンケートで肯定率を50%以上とする。	肯定率は、全学年を通して67.3%であり修学旅行や国際課題に取り組んでいる5年生の肯定率は65.1%となっている。	4	4	国際交流が活発に行われ昨年度に比べ飛躍的に向上した。さらに部活や個人が参加している国際交流を全体に共有できる場を設定する必要がある。				

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
	国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	旺盛な探究心、課題の解決に向け粘り強く挑戦する学びを活かしたライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」で行われる「グローバル人材育成事業」や「夢プロ」、その他の様々な教科から現代社会の課題を学び、その上で自身の在り方や生き方を考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「社会や身の回りの様々な今日的な諸課題に関して以前より興味関心を持つようになった」という項目で学校評価アンケート全学年を対象として肯定率を70%以上とする。 	全学年を通しての肯定率は73.7%であった。各学年別では4年生が69.7%、5年生が71.6%、6年生が79.8%となっている。	4	4	今後の4年生校内発表や課題への取り組み、5年生修学旅行後のプチ探究や夢プロなど発表や体験を通して意欲を引き出す。				
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校外に広く発信する広報官としての意識を持つ教職員	<ul style="list-style-type: none"> 中学校への学校訪問や訪問受入等による連携を積極的に行い、意欲ある本校受検者の定着と増加につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクールへの参加者250人以上、最終の本校受検倍率1.1倍以上とする。 	オープンスクールの参加は243名と目標値を下回った。昨年度比33%減少した。(保護者を含めると362名、33%減少)	4	2	<ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力発信に一定の成果があったが、例年実施していた午前と午後の2部構成を、本年度は午前のみにしたため、参加者が減少した。今後も継続して本校に対する興味関心を高めるホームページの内容の充実を図る。 				
					<ul style="list-style-type: none"> HPやブログを頻りに更新し、持続的で魅力ある情報を保護者、地域に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの月別更新回数を8回以上とする。 	昨年よりHPをリニューアルしている。更新回数は月平均12.0回と目標を上回っている。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続きリアルタイムでの情報提供を積極的に行う。特に本校教育活動の情報と生徒の活躍を内外に配信する。 				

Ⅲ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 福山中・高等 学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
	働き方改革に取組み、教職員の健康増進と教育の質の向上を図り、教育公務員としての自覚と使命感を持つ。 【信頼される学校】		継続	教職員の超過勤務時間削減	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の一斉退校日を徹底するとともに、現行の業務内容について点検、見直しを行い、業務改善を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1か月の時間外労働80時間を超える職員を減少させ、月45時間以内の人数を増加させる。 	月1回の一斉退校日を徹底することはできた。働き方改革が十分に行えず、80時間を超える職員は昨年度より中高とも増加している。45時間以内の職員は昨年度より中学校は減少している。	2	2	現在の業務方法を各部・各学年で分析し、どこをどう見直すことができるのか検証・検討を行うとともに、衛生委員会でも協議する。				
			継続	法令遵守の自覚と使命感を持つ教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づき、不祥事防止研修を実施するとともに、当事者意識を高め、不祥事の未然防止に取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週初めの職員朝会で不祥事防止に係る研修を実施する。不祥事防止研修は5回/年以上実施する。 	毎週不祥事防止に係る研修を職員朝会で実施し意識を高めた。全体研修は3回実施し、不祥事のない職場環境を維持している。	4	4	不祥事を他人事と捉えずいつでもどこでも起こり得ること認識し、事例は全体共有するとともに、風通しのよい職場づくりのために教職員間のコミュニケーションを大切にする。				

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。